

さつまいもの魅力を発信する国家公務員 YouTuber

～いつものいもが違って見えるきっかけ作りに挑戦～

農林水産省農産局技術普及課係長

わたなべ
渡邊さゆり

1. 農林水産省公式YouTube「BUZZ MAFF (バズマフ)」とは

私は、農林水産省公式YouTube「BUZZ MAFF」で「さつまいも大好きチャンネル」を担当していた。「BUZZ MAFF」とは、農林水産省職員自らが、省公式YouTubeチャンネルでYouTuberとなるなど、担当業務にとらわれず、その人ならではのスキルや個性を活かして、我が国の農林水産物の良さや農林水産業、農山漁村の魅力を発信するプロジェクトである。日本茶、日本酒、農業遺産、和食や食文化など、多種多様なジャンルの動画を発信する複数のグループが存在し、「BUZZ MAFF」にはほぼ毎日動画を公開している。

令和2（2020）年1月に始まり、開始当初は霞ヶ関初の試みとしてメディアにも取り上げられた。

開始当初は、チャンネル登録者数がなかなか増えなかったが、令和2（2020）年3

月に、タガヤセキウシユウというグループが、新型コロナウイルス感染症の影響で需要が低下している花の消費拡大を図るために作成した動画が多くの人に再生され、これをきっかけに「BUZZ MAFF」の知名度が急激に高まった。

多くの方々の応援のおかげで、今ではチャンネル登録者数は、令和4（2022）年2月時点で14万人となっており、現在も各種グループが動画を投稿している。

さらに、令和3（2021）年4月には、「BUZZ MAFF」に携わる農林水産省職員を中心に、各種食材に詳しい職員の想いとその知識を紹介した書籍『農林水産省職員直伝「食材」のトリセツ』がマガジンハウ



(写真1) 農林水産省公式YouTube「BUZZ MAFF」のロゴマーク



(写真2) 書籍『農林水産省職員直伝「食材」のトリセツ』

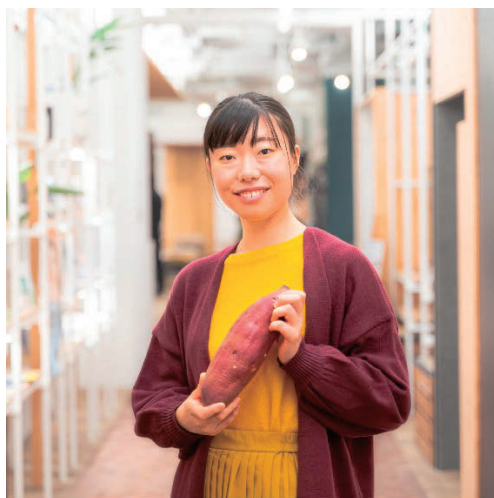
ス社から出版され、私もさつまいもの紹介をさせていただいた。

2. 「BUZZ MAFF)」で「さつまいも大好きチャンネル」を始めた経緯

「BUZZ MAFF」のメンバーは公募で決められる。情報発信したい内容を企画書にまとめて広報室に提出し、選ばれたメンバーが「BUZZ MAFF)」のチャンネルに動画を投稿できる。私は、動画作成の経験は一切なかったが、さつまいもの魅力を発信する「さつまいも大好きチャンネル」を作りたいという熱い想いを企画書に込めたところ、その熱意が伝わったのか、令和2(2020)年1月に第1期メンバーとして選ばれた。

そもそも、なぜ私がさつまいもの魅力を発信したいと考えたのかというと、大学時代に話は遡る。平成25(2013)年4月に茨城大学農学部に入學し、そこで、茨城県出身の同級生から「干しいも」をもらい、こんな美味しいものがあったなんて！と心を奪われた。その後、さつまいもの植物としての魅力、食べ物としての魅力を知れば知るほど、ますますさつまいもへの興味関心、好きという気持ちが大きくなった。大学在學当時、さつまいもに関する研究を行っている研究室はなかったが、作物学研究室の教授に懇願し、どうかかさつまいもに関する研究をさせてもらった。卒業論文のテーマは「サツマイモ塊根および“サツマイモ蒸切干”における貯蔵物質の蓄積構造に関する形態学的解析」である。

平成29(2017)年4月に農林水産省に入省。さつまいもに関わる仕事がしたかったが、たくさんの部署・業務がある中、希望



(写真3) 「さつまいも大好きチャンネル」では、黄色のセーターと紫色のカーディガンを着用。さつまいもカラーの衣装で毎回撮影を行うなど、自分自身の見た目からさつまいもが大好きと伝えることを意識した。

通りの仕事につけることは稀であり、さつまいもとは直接関係のない仕事をしていった。

そんな時、自分の個性やスキルを活かして情報発信ができる「BUZZ MAFF」が始まることを知り、自分の大好きなさつまいもの魅力を伝えられるチャンスと考え、思い切って応募した。

3. 「さつまいも大好きチャンネル」に登場する個性豊かなゲスト

「さつまいも大好きチャンネル」の冒頭挨拶はいつも同じで、「さつまいもを愛してやまない農林水産省職員の渡邊が、さつまいもに心を奪われた個性豊かなゲストを迎え、さつまいもの魅力をお届けするさつまいも大好きチャンネル。いつものいもが違って見える。そんなきっかけになれば嬉しいです。」である。この挨拶に、動画の目的とメッセージがまとまっている。

個性豊かなゲストを迎えることで、さつ

まいものの魅力を様々な角度から紹介したいと考え、3か月間で全13の動画を作成した。

① さつまいもカンパニー代表取締役の橋本亜友樹さんとマニアックなさつまいもトークを繰り広げ、②イベントディレクターで品川やさいもテラスに携わった天谷窓大さんと焼きいもの魅力を語り合い、③川越いも友の会事務局長であり埼玉県川越市にある「サツマイモまんが資料館」館長の山田英次さんからさつまいもの歴史をマンガで教えてもらい、④アンテナショップ店長から干しいもの百貨オーナーに転身した杉山彰啓さんと干しいものの魅力を語り、⑤日本・大学芋愛協会会長の奥野靖子さんの人生を変えた大学芋屋さんを含め数種類の大学芋を食べ歩き、⑥さつまいも農カフェきららオーナーの新谷梨恵子さんとさつまいも愛を共有し、⑦JAなめがたしおさいさんから365日美味しい焼きいもを届ける挑戦について教えてもらい、⑧鹿児島県鹿屋市のかのやカンパチロウとさつまいもダンスを踊り、⑨茨城県行方市にある「らぼっぼ なめがたファーマーズヴィレッジ」のギネス世界記録を取材し、⑩「BUZZ MAFF」の仲間になっとり、ほくほく、色が鮮やかと個性豊かな焼き芋3種類を紹介し、⑪(株)くしまアオイファームさんのさつまいも海外輸出の挑戦を取材し、⑫東京大学の田口一輝さんと世界のさつまいもと未来のさつまいも事情について語り合い、⑬「BUZZ MAFF」で日本茶の魅力を発信している御茶村さんと芋けんぴと芋羊羹でお茶会を開き、あらゆるテーマでさつまいもの魅力を届けることに挑戦した。

食料問題を解決したいと考えた時にいも類が重要な作物と気が付き、さつまいもに

辿り着いた人、焼いただけ、干しただけで砂糖等を加えなくても甘いということに心を奪われた人など、ゲストの話には共通する話題もいくつかあり、私自身もさつまいもの魅力や可能性を再認識した。

撮影にご協力いただいた皆様には、この



(写真4)「さつまいも大好きチャンネル」の全13動画のサムネイル

場を借りて改めて感謝申し上げたい。

4. いつものいもが違って見えるきっかけ 作りに挑戦

皆さんは、最近さつまいもを食べただろうか。さつまいもは、焼きいも、干しいも、大学芋のみならず、最近はオシャレなスイーツやアイス、ドリンクがあり、液体としては焼酎、粉体としては春雨や冷麺に使われている。まさに変幻自在であり、特に意識していなくとも、私たちの日常生活にさつまいもは存在している。

また、さつまいもとの思い出はあるだろうか。幼稚園や小学校でさつまいも掘りや落ち葉で焼きいもを焼いた思い出、おばあちゃんの家で干しいもを炙って食べた思い出など、何か1つはエピソードを思い浮かべられるのではないだろうか。

そんな身近ではあるけれど、あまりスポットライトを浴びる存在ではないさつまいもを、ちょっと立ち止まってじっくり見てみて考えるきっかけ作りをしたいと考えた。それが、「さつまいも大好きチャンネル」の冒頭挨拶で繰り返し使っている「いつものいもが違って見える。そんなきっかけになれば嬉しいです。」とのメッセージだ。

5. さつまいもアンバサダー協会の公式 YouTubeをサポート

私は「BUZZ MAFF」を令和2（2020）年3月に卒業し、「さつまいも大好きチャンネル」は令和2（2020）年3月30日公開の動画を最後に終了した。

ただ、さつまいもが好きという気持ちは



(写真5) さつまいもアンバサダー協会の公式YouTubeに公開中の動画のサムネイル

変わらず、休日はさつまいも畑の手伝いや、さつまいも商品の食べ歩きなど、さつまいもをライフワークにしている。

また、「BUZZ MAFF」で身に付けた動画編集スキルを活かし、会員として所属する一般社団法人さつまいもアンバサダー協会の公式YouTubeの撮影・編集をサポートしている。これまで、さつまいもクイズの解説動画、タンザニアで干しいも作りに挑戦しているマトボルワ社の長谷川社長のインタビュー動画などを公開しているので、こちらもぜひご覧いただきたい。

6. 先人への感謝を忘れず未来のために できることを

現在、私たちが多種多様な美味しいさつまいもを食べることができるのも、品種開発をしてくださった方、栽培してくださった方、加工・流通してくださった方、そして、美味しさと魅力を伝えてくださった先人がいるからだ。先人への感謝を忘れず、未来に美味しく多種多様なさつまいもを繋いでいくためにも、今後とも様々な機会で精一杯取り組んでまいりたい。